

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。



社会福祉法人

小羊学園

〒433-8105

静岡県浜松市北区三方原町 2709-12

電話：053-414-1833 FAX：053-438-7707

E-mail kohitsuji@imix.or.jp

H.P http://www.kohitsuji.or.jp/

発行人：稲松 義人

印刷所：SRS株式会社

定 価：一部 30 円

2012年11月20日

第 355 号

つ の ぶ え

共感するということ

つばさ 静岡

施設長 山倉 慎二

人の頭の中で考えていることは、超能力者でもない限り、絶対に他人にはわかりません。もちろん、言葉や体で表現して伝えることはできますが、我々大人の人間社会には本音と建前というものがあり、どれほど熱い言葉で語られようとも、どんなに真摯な態度で示されたとしても、それが本当にその人の思っていることであるかどうか、つまり本音であるかどうかは知るよしもないのです。

重症児者と接していると、「この人は何を考えているんだろう」とか、「どんな風を感じているんだろう」とか、「そんな風を感じているんだろう」と思うことがあります。支援者にとっては、自分の支援が「その方の喜びや楽しみに、あるいは快適な生活に繋がっているのだろうか」。ひいては「本当にこれでいいのだろうか」と思い悩むこともよくあります。

彼らの気持ちを理解しようとする努力は大切です。しかし、「私は彼らのことを理解している」とか「彼らはこう考えているに違いない」という感覚をもってしまったなら、それはおごり以外の何物でもありません。

「ネコ耳」というおもちゃがありません

す。詳しい原理はわかりませんが、頭にネコの耳型を装着し、前頭葉の脳波などを測定することで、その人の心理状態によって頭につけたネコの耳が立ったり、耳が垂れたりするおもちゃです。私は怖くてこれをつけることができません。きれいな女性のそばに近寄っただけで耳がぴんと立ってしまったり、満面の笑みであいさつをしているのに耳が垂れてしまったりしてはたいへん困るからです（まさかそこの機能はないと思います）。やはり、人の心は見えないに越したことはないのです。人の心が見えたとしたら、それが良い感情であればいいですが、悪い感情であったなら、世の中生き辛くて仕方がないでしょう。心が見えないからこそ平和に暮らしていけるのだろうか、見えないからこそ面白いとも言えるのではないのでしょうか。

重症児者はほとんどの方が、自分の気持ちを言葉で表現できません。そのため日々の支援がうまくいっているかどうかは、その方の表情や視線、緊張の度合いなどから推し量ることになります。

先日の重症心身障害療育学会で支援員の村田さんが「思いも寄らない光景から気づかされた利用者の意思」という題の報告をしました。その中で彼は「私はあなたのことをこんなにも考えてこれだけのことをしている」という支援の結果、自分だけが気持ちよくなっ

ているという落とし穴にはまってしまふことがある。と自分たちの支援のあり方を自戒していました。利用者さんのためにという思いだったはずが、いつの間にか自分の自己満足の支援にすり替わっている危険性を指摘したものでした。

さて、そこで再考してみたいのが、共感するとはどういうことかということです。重症児者の支援において共感することは非常に重要です。しかし、共感とは「相手の考えていることがわかる」ということでは決してありません。ましてや、「相手も同じ気持ちであるはずだ」と自分の思いを相手におしつけることでもありません。共感とは、読んで字のごとく、「共に感じる」ということです。ごくありふれた日々の生活の中で、共に感じる体験はいくらでもあります。春の日差しを共に浴びながら、「今日はポカポカあったかいね」とか、涼しくなった秋風に吹かれながら、「いい風が吹いてるね」とか。彼らの考えていることはわからなくても、共に感じることはできます。それが共感ということではないでしょうか。何か予定を組んで出かけたり、活動をしたりすることも、私たちが彼らに一方的に提供しようとするのではなく、共に楽しみ、共に笑い、共にふざけ、ときには共に泣き（よく似た歌詞がありましたね）、そうやって共に感じる大切なのだと思います。

小羊学園ふれあい運動会

走り・笑い・応援した、秋の思い出



浜松地区の通所事業所の交流を目的に、今年で4回目を迎えたふれあい運動会が10月12日(金) 浜北グリーンアリーナで行なわれました。みんなが頑張っている様子を報告します。

優勝奪還を目指して…

マルカート 平松 志郎

マルカートでは、昨年、奪われてしまった優勝トロフィーの奪還を目指して、活動の時間の中で、実際の競技をシミュレートして練習をしました。

新しい競技である玉入れも、実践形式でシミュレートすることによって、本番でも戸惑わずに競技できたのではないかと思います。玉転がしリレーの練習では、隣接する放課後支援施設ドルチェのバランスボールが活躍しました。男女混合リレーの練習では代理の職員が登場し、実際に本番で使用したバトンを使って練習しました。

そして、何より今回は選手宣誓の当番だということで、一週間ほど朝の会の時間に練習を重ねてきました。家で練習してきてくれた利用者もいました。その成果もあってか、本番では、少し戸惑う場面もありましたが、滞りなく行うことができました。

結果として優勝は逃しましたが、利用者一同全力を出し切り、怪我もなく

とても充実した運動会を経験できたと思います。



マルカート3人そろい踏みの選手宣誓

ゴールへ一直線！

支援センターわかき 榎 亜珠加

午前中の競技の徒競走は30M走男子・女子と15M走車椅子・歩行器に分かれて行いました。各施設12名ずつの選手がスタートからゴールまで各々のペースで走りました。一直線に走り抜ける

方、立ち止まりながらもマイペースにゴールまで向かう方、利用者さんそれぞれの個性が出ていて、利用者さんだけでなく、職員の皆さんの笑顔も印象的でした。



続いての種目は、一番のお楽しみみの『パン食い競争』です。今年もオリーブのパンやデイケアのクッキーが用意されました。パンの種類も様々で、カレーパン・あんぱん・アップルパイ・カマンベールパンがあり、一番人気はアップルパイでした。逸る気持ちを抑えきれず、スタートの合図の前に走りだしてしまい、パンを目の前にしてスタート位置に戻されてしまったスクエア棟の利用者さん。パン食い競争なのに、パンを取らずにしっかり力走しご満悦な表情だった支援センターわかきのカズコさん。とても、微笑ましい光景でした。最後は職員のみなさん、ご家族の方々にも参加していただきました。みなさん、笑顔あふれる楽しい内容となりました。

満点のパフォーマンス

オリーブの樹 菅井 克真



昼食は、天候にも恵まれ外で昼食された方や、室内で昼食された方がいました。

午前中にみんなで一緒に応援したり体を動かしたりした後のお弁当は、普段と違いました。おいしく感じました。利用者さんに、今日のお弁当「おいしいですか？」と聞くと「おいしかったですよ」と返事を返してくれる利用者さんや、言葉ではうまく伝えにくい利用者さんは、笑顔で答えてくれ、どの利用者さんも笑顔で食事を楽しんでいました。

お昼休みは恒例となりました、魅惑的倶楽部(エキゾチッククラブ)の方々のコンサートが行われました。

音楽の中で、「右手」とリズムに合わせて歌うと、利用者さんも一緒に右手をあげる方やジャンプする方、また、手を叩いて喜びを表現されるなど、皆さんからだ全体で楽しさを表現してい

ました。点数をつけるなら、皆さん満点のパフォーマンスでした。

それ以外の曲として、とりのトトロで使われた「散歩」や「世界にひとつだけの花」など、振り付けを交えながら歌っていただき、音楽を通じての交流があり、とても楽しい時間を過ごすことができました。

来年の運動会でも、今年以上に皆さんが楽しめるイベントを、企画していきたいと思っています。



白熱するチーム戦

三方原スクエア 渡邊 紀香

午後の競技の1番目は、今年度より新しく取り入れた玉入れ。ルールは床に置かれた1点と5点の箱に玉を入れ得点を競うというものでした。ぱびるすの子どもたちは競技場所に集まると

得点箱に入る子もいて子どもらしい楽しみ方もしていました。わかぎの利用者さんは5点の箱に百発百中でボールを入れて得意気でした。合計得点は、300点台から500点台までと高い得点となりました。

続いては毎年恒例の大玉転がし。ぱびるすの子どもたちは体は小さくても転がすのがとても上手でダントツの優勝でした。他の施設の皆さんもとても上手に玉を転がしていました。スクエアの皆さんはマイペースに玉を転がす人が多く、競争よりも大玉を転がすことを楽しんでいる様でした。

最後の種目は男女混合リレー。スクエアの1番手のホウイチさんはとても速くトップでバトンを渡しましたが、その後も走り足りないよう何周か独走していました。皆さん一生懸命走り、僅差でのゴールでした。5走6走の職員による仮装二人三脚は衣装が似合っている人もいて、応援している方もとても楽しめたようです。



三方原スクエア念願の優勝 小羊デイケアホーム 横井 一陽

スクエアの皆さん、念願の初優勝おめでとうございます。

皆さんが、一致団結して頑張った結果だと思えます。また、惜しくも優勝を逃した他の施設の皆さんも、とても頑張っていました。その姿はキラキラして感動を与えてくれたと思います。

今年も、色々な競技があり利用者さんや保護者の方、職員も大いに楽しめた運動会だったと思います。

今年から、施設ごとのカラーを決めハチマキやバトン等カラフルになりました。応援な色で会場も盛り上がりました。応援

席では、太鼓の音がしたり、小旗を振ったりして応援している風景が見られました。

そして、なんととっても表彰式で大きなトロフィーを掲げ嬉しそうな表情を見せてくれた姿がとても印象に残りました。2連覇出来るといいですね。

最後になりますが、アトラクションで披露して頂いたエキゾチッククラブの皆さん楽しいダンス等本当に有難うございました。また、「第4回ふれあい運動会」を企画、運営をしてくださいました、平松実行委員長をはじめ運営委員の皆さん本当に有難うございました。来年は、どんな「第5回ふれあい運動会」になるのか楽しみみです。

ふれあい運動会 実行委員に聞きました！

実行委員長 マルカート 平松 志郎 さん

- 今年のふれあい運動会で意識したことは？
利用者が楽しめる運動会にすることです。
- 運動会の開催中に感動したことは？
それは、もちろん選手宣誓です。
- 利用者が楽しめるように心掛けたことは？
最後の選手がゴールするまで待つようにしました。
- 次年度への反省を聞かせてください
スターター（自分）にもマイクを。



後列中央が平松実行委員長

支援センターわかぎ秋祭り

11月11日(日)に支援センターわかぎ秋祭りが開催されました。今年も、東北被災地に少しでもお役立ちできるように、東北うまいもん店を開催。現地から直接仕入れたラーメンやコロッケ、芋煮汁などが軒を並べました。売上金は、津波で被災した気仙沼市のケアホームめぐみに献金する予定です。また、法人が人的支援を行っている南相馬市「ビーンズ」の授産製品も販売。さをり製品や缶バッジが人気でした。

当日は午後から小雨が降る天候にもかかわらず、大勢のお客様が来場され、フラダンスやエレクトーン演奏、ロックショーなどで盛り上がりました。ま

小羊学園を支えるボランティア 魅惑的倶楽部 (エキゾチッククラブ)

魅惑的倶楽部とのお付き合いは6年前。マルカート利用者のご縁でマルカートクリスマス会のイベントに参加していただいたのがきっかけ。以後、ふれあい運動会では毎年お昼のアトラクションで楽しいショーを披露していただいています。

魅惑的倶楽部は音楽とダンスをメインに浜松特別支援学校での余暇支援や、障がいをお持ちの方の成人式開催など、障がいのある人が社会や地域で生きていく架け橋として活躍されています。

また、浜松市市民協働センターを浜松市から委託を受けて運営しています。

小羊学園はいつも明るく元気な皆さんが大好きです！これからもお付き合いよろしくお祈りします！！



障害者虐待防止法が施行

平成24年10月1日付で障害者虐待防止法が施行され、障がい者の虐待に関する定義、また国や公共団体、保護者や福祉施設従事者、国民の責務、及び防止システムが制度化されました。

法施行を受けて、法人施設では権利擁護・虐待防止に関する内部研修を各事業所で行い、虐待の未然防止に努める機会を設けました。研修では、虐待に繋がる前の人権感覚を養うことが重要であると確認しました。

た、フリーマーケットや野点、体験工房、フットケアのイベントも盛況で、楽しい1日を過ごすことができました。

クリスマスのご案内

アドベント(待降節)に入り、各施設ともクリスマスに向けて慌しく準備が進んでいます。各施設のクリスマス情報をお知らせします。

三方原スクエア

◇ キャンドルサービス
12月14日(金) 18時30分

至 遠州栄光教会三方原礼拝堂

◇ 礼拝・12月22日(土) 10時45分

支援センターわかぎ

12月19日(水) 13時30分

つばさ静岡

12月16日(日) 10時30分

わたぐも

12月22日(土) 10時30分

小羊デイケアホーム

12月21日(金) 13時30分

マルカート

12月21日(金) 13時30分

ドルチェ

12月22日(土) 11時

オリーブの樹(わかな)

12月21日(金) 11時

ぱびるす

12月21日(金) 11時

小羊学園を支える会

2012年度寄付金報告

10月受付分 625,974円 (21件)
累 計 2,742,025円 (175件)

小羊学園への寄付金振込み先

郵便振替口座 00800-8-107785
口座名義 社会福祉法人小羊学園
ゆうちょ銀行 089店 当座預金0107785
口座名義 社会福祉法人小羊学園

ご希望があれば、郵便振替用紙をお送りいたします。下記へご連絡ください。
小羊学園を支える会事務局 (鈴木)
三方原スクエア内 ☎ 053-414-1833

編集後記

支援センターわかぎの全面改築がいよいよ実現することになる。10月下旬浜松市から補助金決定通知をいただき、国庫補助が降りることになった。具体的には平成26年3月の竣工を目指し、これから工事に向けて準備を進めていくことになる。改築後の建物では、個室個室、バリアフリー、ユニット体制を維持しながら職員協働体制の強化、職任分離など従前の良さを継承しつつ、高齢化に対応できる環境整備がされることになる。具体的な図面や方向性については、直近に特集を組んでご報告いたします。

日々寒さが厳しくなっています。お身体どうぞご自愛下さい。(F)